

○事業所名	東遠学園組合 東遠地区生活支援センター 放課後等デイサービスたんぼ		
○保護者評価実施期間	令和8年 2月 1日		～ 令和8年3月15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	26人	(回答者数) 13人
○従業者評価実施期間	令和8年 1月29日		～ 令和8年 2月 27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価作成日	令和8年3月15日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<ul style="list-style-type: none"> ・思いや意思を大切にしている。 ・気持ちを受け止める姿勢を整えている。 ・遊べる空間(居室3部屋、体育館)と環境(おもちゃ、グッズ)が揃っている。その為、遊びの選択肢も多い。 ・一対一で丁寧な支援。 ・個々も大切だが、集団や友達とのつながりも大切にしている。 ・素敵な職員のオールスター。 ・障がい性や特性に配慮した支援や活動 ・スタッフ間で情報共有が出来ている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・曜日で利用日を固定している為、友達との関係が出来やすい。 ・分かりやすい支援の工夫をしている。(視覚提示を行う、選択の場面を意識、見通しを持てるように支援する) ・無理な時に話しかけない。 ・望ましい行動を褒めたり、伝えている。 ・自分の担当の子だけでなく、臨機応変に対応している。 ・子どもの得意なこと、好きなことを大切に遊んだり活動している。 ・安全管理も意識している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども達に様々な経験をしてもらいたい。 ・保護者支援の充実。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<ul style="list-style-type: none"> ・空間が分かれている為子どもの把握が難しい。(逆に言えば子どもが遊びたい場所を選んで過ごしているとも言える。) ・週に1回利用の子どもが多く、担当の子ども以外で関係が出来にくく、様子が掴みにくい。しかし、丁寧に関わるのがたんぼの強みでもある。 	<p>担当がある程度固定する事で関係性を築きやすくしている。それが逆に個々の関係は出来るが、たんぼ全体の子どもと大人の関係性のネットワークが構築出来にくいのではないかとされる。また、放デイ活動終了後にカンファレンスを行い、利用した子どものあらわれを伝えあっているが、必要な情報共有を必ずしも支援者全員が把握出来ていないことが要因と考えられた。様々な勤務形態があり、情報を共有する時間が少ない事も影響している。</p>	<p>当日の活動前の打合せの時間帯に、情報を取り入れる時間の確保を行う。(前日や前回のあらわれを確認する時間)</p> <p>誰が見ても子どものあらわれや情報が理解しやすい環境を構築していく。</p> <p>担当がある程度入れ替えながら、全員の子ともと関係を作り、皆が安心感を持てるような設定をしていく。</p>
2	<p>週の利用回数が少ない子どもにとっては「たんぼでは〇〇で遊びたい!」という思いがある。その為子どものやりたい遊びを尊重したり、やりたい遊びの前に集団活動をこなす事を捉えると、集団活動がなかなか広がらない、深まらない現状がある。</p>	<p>子どもにとって「希望する遊びがある」という事はポジティブに捉えたい。しかし、集団活動の中に魅力的な工夫や設定が少ない事も考えられる。また、子ども同士がお互い関心を持ち、活動を通して関わり合いを楽しめたり、良い刺激になるような声掛けや支援も必要だと思われた。</p>	<p>ワクワク・ドキドキするような活動や設定をする事で、集団活動自体にも期待が持てるように設定していきたい。その為の計画や準備にも力を入れていきたい。</p> <p>子ども自身が大人との関係性が深まり、安心して力を発揮できるようになった時に、余裕が出てきて、他者への関心へと広がっていく過程もある。集団活動に工夫しながら、個にも充実感のある支援をする事で、子ども自身が他者への関わりへの期待感を持てるようにしていきたい。</p>
3	<p>週に一回の利用では関係性が深まりにくい。また、長期休みの時には月、水、金曜日の開所をしている。火、木曜日や卒業後の子どもは午前から利用希望があるが受け入れが出来ていない。働いている保護者にとっては、利用しにくい、予定をたてにくいのではないかと?</p>	<p>事業所の大きな課題の一つ。職員数や勤務体系の課題と思われる。</p>	<p>働いているかどうかに関わらず、保護者にとって計画的に安心して預けられる事業所運営が求められている。放課後等デイサービスとして、希望に応えられる方法を探していきたい。</p>
4	<p>保護者支援について 現在週に1回～2回程お迎えの所で顔を合わす程度で、接点が少なく保護者同士が繋がりにくい状況なのではないかと?</p>	<p>保護者同士の繋がるきっかけが少ない現状がある。単純に週の利用回数だけで検討するのではなく、保護者同士が繋がるきっかけの充実が求められていると思われる。</p>	<p>現在親子活動(年に一回)や、茶話会(年に1、2回程度)等保護者同士が繋がる機会の企画を実施している。しかし参加者は少数である為、企画内容の工夫が求められている。また回数も機会の提供としては少ないかもしれない。回数増加と内容の充実を検討していく。また、保護者のニーズがどこにあるのかも探り、より適した企画の材料としたい。</p>
5	<p>通常学級に通う子との交流が少ない。 外出先が同じような所になってしまう。 もっと色々な経験をさせてあげたい。</p>	<p>計画性の部分が充分ではないと思われる。また、地域や色々な方と関わる場面の意識が薄かった。</p>	<p>近隣の小学校へ外出させてもらったり、公共機関を利用した外出(外食)も良い経験になりそうという意見もあった。計画的な活動を目指し、様々な経験や色々な人と関われるような設定を検討したい。</p>

